

地球社会の未来を築く日立技術の展望

「創業100周年記念特集シリーズ」スタートにあたって



日立製作所
執行役常務・研究開発本部長

小豆畑 茂

平素より『日立評論』をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。

本年2010年、日立グループは創業100周年を迎えました。これはひとえにお客様をはじめ、多くの皆様方から長きにわたってご愛顧・ご支援を頂戴してきた賜物と、感謝の念に堪えません。この誌面を借りて改めて感謝申し上げます。

『日立評論』は、創業から9年目、1918（大正7）年の創刊から今日まで、90年以上もの間、日立グループの技術開発と事業展開を広くご紹介してまいりました。私どもにとって最も大きな節目である本年度は、この4月号より2011年3月号までを「創業100周年記念特集シリーズ」と題し、特別編集による誌面構成で発行いたします。

1910（明治43）年、小平浪平は日立鉱山の電気・機械修理工場として日立製作所を創業しました。小平が掲げたのは「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という高い志でした。そこには、時代がいかに大きく変わろうとも、決して変わる事のない日立グループ共通の精神があります。私どもはそうした自分たちのルーツを振り返り、また、これまでご愛顧・ご支援いただいた多くの皆様方への感謝を新たにしながら、未来に向けて「確かな技術でつぎの100年へ」という記念スローガンを掲げました。

創業100周年というこの節目の年は、新たな100年という大海原に向けての出航のときであり、これまでに築

き上げてきた、みずからの技術と知恵を最大限に発揮して新しい価値を生み出し、世界中の人々に提供していく、そのような決意のときでもあります。

世界に目を向ければ、地球温暖化、資源・エネルギーの枯渇、激変するグローバル経済など、きわめて困難な課題が山積しています。新興地域では豊かな社会に向けた基盤整備が急ピッチで進められる一方、先進国では低炭素社会へのリノベーションが求められるなど、世界中で、地球環境に配慮しつつ安全・安心を確保する高信頼の社会基盤が待望されていることを肌身で感じます。

日立グループは、こうした諸課題の解決に貢献するために、社会基盤を担うお客様との多くの協創を通じて磨いてきた幅広い技術に、最先端の情報・通信技術を融合・連携させる「社会イノベーション事業」に注力しています。創業100周年の今、心を一つにしてめざす目標は、健全な経済発展と持続可能な低炭素社会の両立を実現する、新たな社会基盤システムの構築です。

本号からスタートする「創業100周年記念特集シリーズ」では、電力・エネルギー、情報・通信、社会・産業、都市・生活、健康・医療、基盤・材料、そして研究開発・デザインなど、さまざまな角度から、日立グループの各社・各部門が総力を挙げて取り組む社会イノベーションへの挑戦をご紹介します。

読者の皆様には引き続きご愛読賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。